

# 全国日青



<http://www.zennissei.com>

zennissei  
2016.6 Vol.176

事務局 〒640-8392  
和歌山県和歌山市中之島801  
安楽寺内  
Tel.073-423-4616  
Fax.073-423-4619

## 第三十一代会長退任にあたり

第31代会長  
和歌山日青会  
松森 孝雄



第三十一代執行部が発足してより、間もなく二年となり、私の会長任期も満了を迎えようとしております。

二年前「躍動」をテーマに掲げ、「我もいたし、人も教化候え」の御聖訓の如くに「自覚」(第三十代「テーマ」の上に立つて)青年僧一人ひとりが「いのちそのもの」である妙法蓮華経に歓びを感じ、「この妙法五字を、法華経を人に勧めたい、勧めなければならぬ」と自発的な活動を促せるよう活動を展開して参りました。私たちの活動の一挙手一投足すべてが「下種」の活動である。

殊には、第三十一代で発足した一般社団法人「日青塾」は、社会教化担当委員会を中心に活発的に運営され、広く一般社会に門戸を拓けた活動を展開し、軌道に乗っております。(詳細は機関誌内の報告参照) 全日青は、青年僧同士の切磋琢磨する

中での資質向上と対社会活動の両輪を伴って初めて「会」としての意義が生じてまいります。

常に社会情勢を的確に把握し、その求める所を早急に察知した上で、宗教者として何ができるのか、また一人ではできないことでも青年僧が一致団結すれば成し得ることを共に考え行動する……これが青年僧ならではのフットワークを活かした活動に繋がってゆくことをこの二年の任期中に実感致しました。

広島を中心とした中四国を襲った土砂災害をはじめ、茨城・栃木の水害など、気候不順の昨今、いっどこで災害が起きても不思議ではない状況の中、発災直後から情報収集と情報発信、そして復興支援と連日の活動を迅速に行えるのも全日青の大きな強みであります。

また昨年は戦後七〇年という節目を迎

え、各メディアでも様々な角度から「戦争と平和」について取り上げられました。私たちが目指す「立正安国」について改めて考える機会となりました。平和の中で生まれ育ってきた青年僧は、戦争の惨事を頭では理解できても「我が事」としてなかなか捉えられません。そのような中、全日本仏教青年会理事長として全日青より出向された伊東政浩顧問が、任期最後となる全国大会を沖縄で開催し、私も実行委員長として微力ながら運営に携わらせて頂きましたが、世界三宗教による平和発信をされたことは既報の通りであります。私たち全日青とともに沖縄慰霊行脚を挙げられたことも大変意義深いものでした。今なお戦争の痕跡が色濃く遺る沖縄の地で、一步一歩踏みしめながらお題目を唱え、追悼の誠を捧げるとともに、その「風を感じる」ことは、青年僧にとって掛け替えのない経験となります。これらは是非後輩たちにも引き継いでいきたいと思います。ありがとうございます。

全日青も五十周年を迎え、遅れておりました「記念誌」も漸く発刊の運びとなりました。五十年という歴史を振り返る中で、先輩各聖のご苦労とご活躍を拝し、敬意を表することにも、自らをそして仲間である青年僧を鼓舞するものであります。

この二年間の活動の二つ二つをここで振り返ることは出来ませんが、私自身、執行部各委員長をはじめ、事務局の各聖、そして全国の青年僧の皆さまに支えていただきました。会長として全国各地を訪れる機会を得、またそれぞれの地でお会いした多くの仲間たちと巡り会えたことは、何に

も代え難い宝となりました。ともに歩む同士がいる、これほど心強いものはありません。

全国各地、それぞれの地域の文化、背景が違ふことによつて、その抱える問題や悩みは大きく異なつてまいります。しかし、下種結縁するとう布教の根幹は変わりません。一大秘法たる「妙法蓮華経」に対し、身口意の三業を以て帰命することによつて、机上の教義・教学から実践的な宗教形態へと展開されます。それが「南無妙法蓮華経」の七字であり、私たちの根幹であり、原動力でもあり、目的でもあります。抱える問題や悩みが異なれども、全国の青年僧がひとつの目的のために情報交換し、問題を共有し、ともに歩める青年僧の繋がりは、全国組織としての全日青の意義として大なるものがあります。

次代を担う後輩各聖には、五十年の歴史を踏まえ、次の八十年百年の礎として、「今」を一所懸命に「躍動」し、

**いねは華果成就すれども必ず米の精・大地にをさまる、故にひつぢおひいでて二度華果成就するなり**

の循環を大切にしていって頂きたいと切に願っております。

第三十一代執行部の二年間の活動に対し、ご支援やご協力を賜りました各聖各位、そして共に歩んでくださった全国の青年僧の皆さまには、衷心より御礼申し上げます。有り難うございました。

そして私たちの思いを引き継ぐ新執行部へ、更には次世代を担う若き青年僧への変わらぬご協力をお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

# 全国日蓮宗青年会 第三十一代執行部 任期満了御礼

● 全国日蓮宗青年会副会長

神奈川県第二部日青会 大森 太郎

副会長の任を賜り、皆様のおかげをもちまして任期二年を無事に終えることが出来ました。が、振り返ってみれば第三十一代のテーマ「躍動」でありますが、それを支えていかなければならない立場、しかしかえって会長はじめ執行部の皆様にご迷惑をかけているばかりの二年間でありました。この場をお借りしましてお詫び申し上げます。長きに渡り全日青に関わりを持たせていただき、また色々な方との出会もありました。特に宗門内に止まらず他宗派・他宗教まで広がり様々な方から多くのことを学ばせていただきました。この貴重な経験は全日青だからこそ得られるのだと思っております。この貴重な「宝」を糧に精進をお誓いし、今までお付き合い下さりました皆様に感謝申し上げます、退任の挨拶にかえさせていただきます。有難うございました。

● 伝道担当委員長

北海道北部日青会 鹿内 祐生

前任の松井委員長の辞任に伴い、一年間でしたが伝道担当委員長を務めさせて頂きました。伝道宗門である日蓮宗の青年僧として、また全日青第三十一代の活動テーマ「躍動」のもとに当委員会にて研修会の開催や各委員会と連携しての事業等を検討してりましたが、正直なところ戸惑いが大きく従来活動を継承することに終始し、満足な活動を展開することが出来なかつた反省ばかりが残ります。任期中は各方面多数の方々にご迷惑をお掛けすることばかりで、自身の力不足を痛感して恥じると共に、頂いたご理解とご協力に深く感謝いたしております。短い間でしたが全日青の活動に執行部の一員として携わる機会を得て、全国の青年僧の皆様との出会いと活動の場を得ることができましたことは何よりの心の寶となりました。

この場を借りて松森会長を始め、執行部の皆様、そして全日青に関わる全ての方々に御礼申し上げ、退任の挨拶とさせて頂きます。ありがとうございます。

● 災害対策担当委員長

福岡県日青会 川崎 泰龍

二年前、災害対策担当を拝命しこの度任期満了を迎えるにあたりお礼を申し上げます。この二年間を振り返ってみますと、気象庁より特別警戒警報が二度発令され各地では観測史上初の雨量・積雪を観測し、今までは考えられぬ気象状況となりました。就任直後広島県において大規模な土砂災害で多くの人的・物的被害が発生し、この中には本宗寺院も含まれました。全日青から土砂撤去作業のボランティアを要請したところ、全国より五十名を超える御参加を賜り全日青の結束力また自然の驚異を肌で感じました。災害はいつどこで、どのような規模で起こるか分かりません。災害活動を行うには状況確認と情報収集が重要になってきます。各ブロック、単位日青会の情報提供、ご協力をお願い致します。二年間、誠にありがとうございました。

● 震災復興担当委員長

岩手県日青会 梅澤 宣周

この度は、全国日蓮宗青年会第三十一代執行部任期満了により震災復興担当委員長を退任することになりました。全国単位日青会の皆様のご指導ご協力に、心より感謝申し上げます。東日本大震災から五年が経ちました。壊れた建物は大体取り除かれ、土地は更地になりました。

沿岸地域では、盛り土がなされ、新たな街づくりが始まっています。しかし住み慣れた家や故郷を失った悲しみは消えることはなく、めまぐるしく変わっていく社会の中で、一層の孤独感や痛みが深くなっているとの声も耳にします。どうか、我々僧侶は無関心であることなく、今後とも被災地への継続的なご支援ご協力をお願い申し上げます。

● 社会教化担当委員長

東京東部日青会 藤井 教祥

第三十一代における当委員会は主に対社会的な活動を展開してきました。そして一般社団法人日青塾を活用し、様々な形で未信徒教化を試みることで、社会の中で寺院や僧侶の必要性を強く感じた。活動の中には反省点もあるが、二年間の活動内容は全日青会員皆様に情報提供出来るように整えてある。もちろん一般社団法人の設立方法や有効利用方法なども皆様にフィードバック出来る。

ドバック出来る。

トラフィシヨナルな団体が何か新しい動きを見せる時には必ず摩擦が起きる。これは不可避なこと、これを回避しようと努力をするよりは、結果を残した方がよっぽど早いし生産的である。時代は常に流動的で当てにならない。その中で守るべきものは守り、捨てるべきものは捨て、掴むチャンスは逃さないことが重要だろう。失敗を恐れては動かず、動かない所にチャンスは訪れないと強く感じる。トライアル&エラー、七転び八起きが社会教化の極意だろう。

この二年間、まさにトライアル&エラーばかりであったが、文字通り「社会教化」に特化してきた。お世話になった関係各聖、各位、各協力団体には深く感謝し、退任のご挨拶に代えさせていただきます。引き続き一般社団法人日青塾はチャンスをもぎ取ることを。

● 立正平和運動担当委員長

渡邊 泰雅

第三十一代松森会長の下「躍動」を念頭に立正平和運動担当委員長として活動してまいりました。

凡そ日蓮宗教師の活動は須らく立正平和運動であることから、その活動は多岐にわたります。その活動の中でも「全日青にしかできない躍動感のある活動とは何か」を考えながらの委員会活動でしたが、引き継いだ仕事をこなすことに追われ、あつという間に二年が過ぎましたことは汗顔の至りです。

しかしながら縁に恵まれたことには、任期中、一年目は太平洋戦争戦没者第七十回忌、二年目は終戦七十周年という年であり、全日本仏教青年会と併催で沖繩唱題慰霊行脚が行われ、そのお手伝いをする機会があったことです。不慣れなことから、大変ご迷惑をおかけしましたが、皆様のお陰をもちまして怪我、事故なく終了できました。「組織で動く」を目標にしている日蓮宗ですが、まさに組織で動かされた皆様のご助力の賜物で、任期を全うできたことを肌身に感じる二年間でした。言葉では言い尽くせませんが、皆様に衷心より御礼申し上げます、退任の挨拶とさせていただきます。

● 総務担当委員長

東京南部日青会 豊 慈恭

一昨年の岐阜結集以来、総務担当委員長として二年間を務めさせて頂きましたが、振り返るとあつという間に時間が過ぎたように感じます。第三十一代では松森会長の「躍動」という所信表



明からスタートしました。躍動する為には行動しなければなりません。行動するには単位日青会の方々に協力頂かなければなりません。各単位日青会の現状と、これからの全日青のあり方や、運営方法を青年僧一人一人が認識し、考えなくてはならない状況を再認識させて頂いた二年間でありました。何時の時代も最前線に立っている青年僧に何が出来たのか？何をしなければならぬのか？今一度初心に戻り、今後の活動に励んで参りたいと思います。

全国より活動支援金をお寄せ頂きました皆様、全国の青年僧の皆様、活動にご理解とご協力を賜りました皆様に心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

● 青少年教化担当委員長

青森立正青年会 川上 洋行

この度は、全国日蓮宗青年会第三十一代執行部任期満了により青少年教化担当委員長を退任することになりました。全国日青会会員の皆様のご指導ご協力を心より感謝申し上げます。

会長の所信表明にありました躍動を胸に秘め、集まれ東北の子どもたちでは第四回、第五回と事業を行い、僧侶だけでなく一般の方々も巻き込んで、大人の背中、僧侶としての姿勢を子どもたちに見せられるようにと活動を行い、様々な職種の方々と思疎通の難しさを痛感しながらの活動でしたが、会長を始め皆様のご協力をいただき、子どもたちの笑顔に励まされながら二年間でした。

将来の日本を背負う青少年幼年の子どもたちが将来を見据えられるよう、前を向いて歩けるよう、それぞれの種がこれからの人生において水や養分をもらい、いつの日か芽生え、そして美しい華を咲かせることができるよう活動を行ってまいりました。多方面の皆様のご協力を仰ぎ、これからも集まれ東北の子どもたち事業に際し、ご指導ご支援ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

● 海外布教研修担当委員長

佐賀県日青会 前田 智珠

「躍動」という言葉で展開された第三十一代全日青。自覚の上に立った自発的な行動を心がけたつもりでしたが、終わってみれば慣例通りの予定をこなすだけに終始してしまっただけに感じます。任期中には、前代から引き継いだ北米百周年をはじめ、



ンド龍宮寺十五・十六周年、タイ、ブーケット津波犠牲者慰霊十周年、ドイツ大聖恩寺創立十五周年と海外研修を行いました。また、今年末には、シアトル百周年、インド龍宮寺十七周年、タイ、ブーケット津波犠牲者慰霊十三回忌が控えております。自身の参加は、インド、ドイツの一回ずつでしたが、初めて訪れる地ということで、開教師（現在は国際布教師に改称）在任中には叶わなかった貴重な経験を積むことができました。また、全日本仏教青年会にも理事の一員として出向させていたたく機会にも恵まれました。勤め先や家族には迷惑をかけたが、実りある二年間でした。衷心より感謝申し上げます。

● 広報教宣担当委員長

新潟東部日青会 本田 義昌

三十一代の執行部で広報教宣を担当させて頂きました。主に「機関紙」の発行や宗報の「青年僧が思うこと」原稿依頼や編集HPの更新を行いました。就任当初の原稿に「熱い思いを皆さんに広く知って頂き檀信徒の皆さんに周知してもらおうのが、広報教宣担当委員長の使命だ」と表記致しました。十二分に出来たかどうか？自問自答しております。この二年の間、毎日と言って過言ではない程、頭の中では全日青の活動を広く周知させる為には何が必要かと考えておりました。任期はこれで終わってしまいますが、これからも全国で活躍される青年僧の素晴らしい活動、広告物が「眼に耳に」止まらない僧侶や檀信徒の方々に直接言葉で伝え続ける所存です。一人では何も出来ません。ですが青年僧一人一人が本気で手を取り合い向き合えば無限の可能性が目の前に現れる筈です。執行部を離れても「この熱い思い」を何とか伝えられるように、自らが広告塔になって伝えて行こうと思えます。二年間の短き間でしたが、私自身、何物にも代えがたい経験を積ませて頂いたことに感謝し御礼申し上げます。

● 行学道場担当委員長 京都日青会 藤井 淳至

昨年度・今年度の二回の行学道場では、「ムダ話をしよう」と題したグループトークを実施致しました。これは、予めテーマを定めず、特定の結論に誘導することもなく、グループ毎に盛り上がる話題でひたすら自由に雑談をして頂く、というものでした。実はそのきっかけは、担当委員会での雑談にありました。はじめ、過去資料等を参考に、どのような道場を開催するのが好ましいか、真面目な会議を開始したのですが、関西人気質によるのか、すぐ何度も話が横道に逸れてしまします。本当ならず軌道修正すべきなのでしょうが、本題よりも横道が楽しくて楽しくて、さすが不思議なことに、横道を進んでいる時に限って、正道を歩んでいたのでは辿り着けないような重要なキーワードに巡り会うのです。そして、事前作成した資料はそっこのけ、雑談に雑談を重ねて拾い集めたキーワードを紡ぎ合わせて企画したのが、この二回の行学道場でした。

行き届きなき点が多々ございましたが、大変貴重な経験をさせて頂き、また全国からお集まり頂いた法友の皆様方と共に素晴らしい時間を過ごせましたこと、歓喜に耐えませぬ。本当にありがとうございます。

## ● 結集担当委員長 岐阜県日青会 阪口 映徳

去る平成二十六年五月、中部結集岐阜大会での任命を受けて以来、全国日蓮宗青年会執行部に携わり活動する貴重な機会を与えていただきました。当会発足時より、事業の根幹と位置づけられてきた全国結集大会の担当委員長として携わることができて、とても幸せな二年間でした。皆様には、在任中は何かとお世話になり、誠にありがとうございました。ここに無事退任を迎えられますことは、ひとえに皆様からのご指導・鞭撻、また格別のご協力の賜物と存じます。

地元日青会に入会し、数々の先輩僧から託された自覚と使命感、同志の皆様とともに祈ったこと、一青年僧として一生懸命に活動した日々、すべてがかげがえのない素晴らしい経験でした。たくさん思い出が詰まった日青会。北海道結集をもって執行部を退任し、私は日青会を卒業することとなります。今後は、かつて先輩僧が私たちにそうして下さったように、熱い情熱と志をもった青年僧が何も怖れず活動に邁進できるよう、微力ながら私にできる限りの応援をして参ります。

これまでご指導下さった先輩諸兄、ともに活動し支えて下さった同志の皆様、青年会活動にご理解とご協力をいただきました皆様、厚く御礼を申し上げます。今後も益々の全日青の発展と青年僧のご活躍にご期待申し上げ、退任のご挨拶にかえさせていただきます。

## ● 活動普及担当委員長

三重県日青会 鷺阪 仁昭

この度、任期満了を迎えるにあたりまして一言ご挨拶を申し上げます。

各単位日青会、また未加盟日青会の各聖におかれましては、活動普及にご協力下さいましたこと、厚く御礼申し上げます。

各日青会において全日青への思いや温度差が異なることは事実ですが、全国の青年僧が一同に集まり、一丸となって純粋に行う全日青活動は、一言で言い表せない、かけがえのない貴重な経験です。

そして全日青で学んだことを、また自坊に戻った時、振り返り生かしていける、実のある経験がそこにあります。

この先、益々厳しい時代になっていくであろう今だからこそ、

青年僧の一人一人の熱き心の軸となる全日青でありますよう、願いを込めまして、全日青へのご理解とご協力を今一度お願い申し上げます、退任の挨拶とさせていただきます。ありがとうございます。

## ● 全日仏青担当委員長

栃木県日青年会 野澤 智秀

全日仏青担当委員長に就任してより早三年。振り返ってみますと、無事に任務遂行が出来ましたことは、これも偏に宗門先輩各聖、全日青会各聖のお蔭様でございます。深く御礼申し上げます。

さて、全日仏青の会務に携わつてみると、想像を超えた激務でした。檀信徒、地元管内そして家族をも犠牲にしておりました。しかし、何かを犠牲にする以上、その方々に恩返しが出来るように！という一心で励んでまいりました。では、私に出来る恩返しとは何か？と考えた時にそれは、法華経の精神を持つリーダーの下、青年僧の力を集結させ、御題目を胸に、他宗と共に数々の事業を作り上げ、それを実行・発信させてゆくことだと考えました。異なる信仰や理念が交錯する中で議論し、その厳しさを知ると同時に「若き想い」が一極集中して形となった時の素晴らしさを経験致しました。

日蓮宗が旗振りをする全日仏青は一区切りをしました。しかし、まさにこれからが大切であると考えます。今後も広く法華経を伝え、やがて全世界が仏祖の大慈悲に包まれていると気付いた時こそ、本当の結びとなるのではないのでしょうか。今後の全日青と全日仏青への御理解御協力をお願い申し上げます、退任の挨拶に代えさせていただきます。

## ● 五十周年記念誌作成担当委員長

東京東部日蓮宗青年会 岡崎 英里

まず、五十周年記念誌発行にあたり、歴代委員長、会長を始めとする全日青OB各聖、全国日青会各聖、皆様の多大なるご尽力を賜りましたこと、ここに厚く御礼申し上げます。

昨年七月末に第二十九代で発足した「五十周年記念誌作成担当委員会」を引継ぎ、当三十一代特別委員会を組織するようにとの松森会長の命を受け、委員長に就任してから短い期間ではございましたが、記念誌の編集作業を執り行わせていただきました。先輩各聖が歩まれた五十年を振り返る作業、一つ一つの

事業のどれを取っても、その時々宗門内外の情勢を反映し、青年僧侶としての本分を全うしようとする気概に触れ、貴重な体験をさせていただいていると実感するものばかりでした。

しかしながら、誌面の都合、時間的制約のため、全てが網羅できたとは言えず、また能力不足故に、十分な編集結果を残せたとお考えず、お叱りを受ける点が多々あるかと存じます。

記念誌をご覧になられた皆様には、お気づきの点、また不足資料等を思い出されるかと存じます。その際には是非とも、私や新事務局にその情報をお寄せいただけますようお願い申し上げます。今後の活動に反映すべく、しっかりと引継いで参ります。

末筆となりましたが、松森会長をはじめ三十一代執行部各聖、事務局各聖には、事務局員任期中での委員長就任のご迷惑や、また資料・記事・原稿集めなどのご尽力を沢山に賜りました。ここに感謝申し上げますと共に、ご支援賜りました各位に心より御礼を申し上げます、退任の挨拶とさせていただきます。

## 事務局 退任挨拶

## 【事務局長】

和歌山日青会 吉野 俊幸

一昨年に事務局長の任を拝命し、早二年。その多くの時間を会長と共に走ってきました。全日青には多くの事業がございますが、会長はその一つ一つを御祖師様の願業であると受け止め、代表者として自ら東奔西走されていきました。その真摯な姿勢に励まされ、自身、失敗を重ねながらではありますが、最後まで務めることができました。

全日青事業の遂行は、事前準備・当日の運営をされる方、そして参加される多くの方々のご協力のもとで成り立っています。こ





の二年間、事務局として全体に関わることができ、全国の日青会員の方々と出会うことができました。地方によって抱えている問題が違っており、お互いが法華経流布の行者として、青年僧同士で意見交換をできたことは、これからの各組織あるいは自坊での布教を進めるにあたり、大変貴重な財産となりました。

そしてこの二年間、役職を務めることができたのは、事務局員の皆様のお蔭でございます。大変忙しい思いをさせました。夜遅く日が変わるまで、印刷屋と一緒に作業してくれました。会議の度、長時間に及ぶ議事録を何日もかけて作成していただきました。皆さまのお蔭で第三十一代執行部が運営されていきました。ここに心より感謝申し上げます。

【財務】 大阪三島日青会 長内 要純

全国日蓮宗青年会第三十一代会長・松森上人に全日青財務という大役を任されてから、早いもので任期の二年が経ちました。

松森上人とは身延山高校からの同級生ということもあって、松森上人の頼みであれば是非とも力になりたいと思いい、お引き受けいたしました。

全日青財務という責任重大な任において、不馴れな中に行き届きの点が多々あったかと思えます。そんな中で会長・松森上人をはじめ事務局長・吉野上人そして財務補の望月上人に支えられ、何とか任期を全うすることが出来ました。衷心よりお礼申し上げます。二年間誠にありがとうございました。

最後に現執行部役員の方々と共に全日青の仕事ができたこと、心より感謝申し上げます。

【事務局次長】 和歌山日青会 清水 文雅

早いもので二年の任期が満了となりました。

会長をはじめ執行部の皆様、また事務局の仕事でお世話になった全ての方々に感謝申し上げます。事務局員として至らぬ点ばかりで、申し訳なく思っております。

最初は全日青について何となくしか分らない、という状態から第三十一代の事務局の仕事が始まりました。しかし参加させて頂くと、執行部の会議、各事業の活動は予算等の制約も多し中で誠実に、熱意を持って行われていました。また、参加させて頂いた活動では日蓮宗僧侶としての自覚や使命感に溢れているような方と出会う事も多く、その度に感銘を受けました。

ですから今は、そうした人達で構成され、青年僧だから出来る活動が様々行われている全日青は素晴らしい団体だと思っております。この二年間で改めて日蓮宗の持つ魅力、素晴らしさを感じられました。

こうしたご縁を頂いたことは思いがけない幸運で、得難い経験となりました。

全日青、各日青会皆様の今後益々のご隆昌を祈念申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

【財務補】 大阪三島日青会 望月 恵真

この度財務補を無事二年間務め、満了を迎えることができました。これも偏に財務である同管区の長内要純上人をはじめ、諸先輩のご指導のお陰と厚く感謝申し上げます。

このような全日青の執行部の御役を頂きましたことを、大変栄光に存じます。二年間という短い期間ではありましたが、大勢の諸聖のご尽力があつてこそ運営がなされていることを改めて感じました。ありがとうございます。

第三十一代では『躍動』をテーマに青年会活動がなされる年間を通して様々な行事が盛況に行われました。自坊の法務や遠方の為、参加することができなかったものもあります。しかし、全国結集大会・千僧法要・行学道場など多くの行事に参加しました。様々な地域に行き数多くの方に、ご縁を頂き交流し学んだことが沢山あります。この貴重な経験と体験を今後の企画運営・布教活動に活かして今青年僧にこそできる活動を、そして次代につながる未来の為に精進していく所存です。

本当に二年間有難うございました。益々の全日青のご活躍とご繁栄をお祈り申し上げます。

【事務局員】 京都日青会 大西 法樹

第三十一代全国日蓮宗青年会の事務局員を事務局長の吉野俊幸上人を始めとする各お上人方と共に務めさせて頂き、大変光栄に存じている所です。任期中には何かと至らぬ点多かつたと思いますが、他の事務局員の各お上人方の御協力無しには、全う出来たとは思えません。誠にありがとうございました。

『松野殿後家尼御返事』に「日本国の中に但一人南無妙法蓮華経と唱えたり。これは須彌山の始めの一塵、大海の始めの一露なり」と仰つた日蓮上人。日蓮上人の信仰が多くの人を繋ぎ、時代を繋いで参りました。今回、全日青という大きな組織で青年僧侶たちが祖意の為、様々な菩薩の行を行って共に歩み、また次の時代に繋ぐお手伝いが出来、大変嬉しく思います。

次年度の執行部、事務局員の各お上人方のご活躍を御祈念しまして退任の挨拶と換えさせていただきます。次年度からは、一青年会員として活動にご協力させていただきます。

最後に、第三十一代全国日蓮宗青年会の事務局員をさせて頂く機会を与えて下さった仏祖三宝に深く感謝を申し上げます。

## 【事務局員】 大阪日青会 和田 龍政

事務局員を拜命していただきました和田龍政でございます。全日青事務局として今迄では参加出来ずにいた全日青の活動に参加し、多くの経験を積ませていただきました。また各単位日青会での活動や各ブロックの活動報告を通じて、多くの同世代の青年僧がどのような活動を行っているかを知る機会を与えていただき深く感謝しております。

事務局員の任を拜命した当初は不安と戸惑いもございましたが多くの人々の支えを受け、任期を全う出来ました。任期途中、私が平成二十七年日蓮宗大荒行に入行する際も松森会長はじめ皆様より快諾していただきましたこと、深く感謝いたします。

この二年間で得た経験と知識を自坊、単位日青、ブロック、全日青等で生かし、今後益々精進致す所存でございます。二年間、誠にありがとうございました。

## 【事務局員】 和歌山日青会 中井 通雄

全国日蓮宗青年会五十周年記念誌発刊、第三十一代事務局員退任にあたり、一言ご挨拶をさせていただきます。

此の度、日蓮宗青年会五十周年記念誌編纂に関しまして、法務のかたわら編集に日夜ご尽力された記念誌担当委員会の皆様方、並びに取材等ご協力頂きました関係各上人方におかれましては、大変お疲れ様でございました。

五十周年という節目に発刊された、この一冊に刻み込まれた深い伝統は、歴代会長はじめ携わられた各上人方のたゆまぬ努力、研鑽、青年僧としてのパワーを形にした賜物であると考えますと、とても感慨深く、只々歴代各上人方に対し頭が下がるとの想いでいっぱいです。

今回、第三十一代の事務局員として、この沢山の伝統が刻まれたバトンを無事受け継がせて頂くことができましたことを、ここに感謝申し上げます。

歴代会長はじめ、これまで全国日蓮宗青年会に携わられた各上人方の法体健全、全国日蓮宗青年会の更なるご発展をご祈念申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

## 【事務局員】 和歌山日青会 植田 観龍

第三十一代全国日蓮宗青年会執行部の事務局員を拜命し二年間に亘り松森孝雄会長御薫陶のもと、任務に当たらせて頂きましたが、この度無事に任務円成することとなりました。

この二年間に多くの方々のご縁を頂き、多くのことを学ばせて頂きました。培いました経験を生かすべく益々精進致す所存でございます。

深々なる感謝と御礼を申し上げます。

## 【事務局員】 和歌山日青会 長瀬 美咲

松森会長の就任に伴い、和歌山日青会員並びに事務局員として、書記を勤めさせていただきました。

私の力量の及ばぬところで、全日青の議事録、ことに毎回、会議次第からの見事な逃避行と、不定期開催のトークショーをはらんだ執行部会議を記録し、議事録としてまとめ上げるのは非常に困難を極める作業でした。会議中は、ブロック長各聖のお心遣いのお菓子で血糖値を上げ、足りない脳に栄養を送ることができました。各聖、どうもありがとうございました。また、議事録をまとめる段では、和田上人、大西上人の議事録に大いに救われ、夜中に合掌したこと、しばしばでした。尚上人、本当にどうもありがとうございました。最後に特筆すべきは、毎回私のまとめきれない議事録を監修し、世に出せる形にしてくださいと吉野事務局長。ご多忙中、相当なご面倒をかけたと思います。感謝もしきれません。

任期中に、妊娠、出産を経験しましたが、無事に職責を全うすることができたのは、ひとえに会長をはじめ、第三十一代執行部並びに事務局各聖のご理解とご協力のお陰です。心より御礼申し上げます。

どこかでも、皆様にお目にかかれずのを楽しみにしています。

## 【事務局員】 和歌山日青会 守法 慶隆

この度、松森会長の第三十一代執行部に事務局員として関わらせていただき、色々な経験をさせていただきました。

それまでは、全日青の活動については無知で、地元である和歌山を飛び出しての活動ということがほとんどありませんでした。しかし、この二年間、執行部の皆さんに色々なことを教わりながら、見習いながら、色々な場所で、色々な人と共に全日青の活動に参加させていただき、様々なことを勉強させていただき自分の世界を広げることができました。

この貴重な経験を積ませていただいたことに感謝すると共に、この経験をこれから先の日蓮宗の活動、自坊での日々、自分が関わるすべてのことに活かしていきたい、これらにつなげていきたいと思っております。

未熟者でしたが、二年間、ありがとうございました。

## 【事務局員】 和歌山日青会 柳本 晃教

この度、全国日蓮宗青年会第三十一代執行部、事務局の任期満了に伴い、事務局員という立場ではございますが、僭越ながら退任のご挨拶をさせて頂く運びとなりました。

まず、松森会長はじめ副会長、各委員長、事務局長の執行部の皆様方が中心となり、全国青年僧の代表としてリーダーシップを執られ、過密スケジュールの中での事業を円滑に遂行される中、微力ながらも事務局員の一人として携わらせて頂ける事ができ、大変光栄に感じております。

また、執行部の方々と同様な場面で一緒にさせて頂く中、「事務局さん、お疲れ様です！」と沢山、労いのお言葉を掛けてくださったたり、業務に関してもきめ細やかな配慮を賜りました。本当に有難うございました。

微力ながらも二年間、業務に従事させて頂くことで、執行部の方々の背中から感じる事ができた「青年僧としての立ち振る舞い」を今後、日青会などの場面で少しでも活かすことが出来れば、と思っております。

最後に、全国日蓮宗青年会の歴史がこれからも脈々と受け継がれますこと、更なるご発展をご祈念申し上げますと共に、甚だ簡単ではございますが、事務局員退任のご挨拶とさせていただきます。

## 【事務局員】 和歌山日青会 武内 正行



第五回

集まれ東北の子どもたち

青少年教化担当委員長 東北ブロック長  
青森県日蓮宗立正青年会

川上洋行

第五回集まれ東北の子どもたちの開催に際しご支援・ご協力いただき、衷心より御礼申し上げます。

青少年教化担当委員では平成二十三年度から「集まれ東北の子どもたち」と題し、東日本大震災により親を亡くした東北の震災孤児・遺児の支援事業を行ってまいりました。

親に甘える事も出来ず、親も子どもを甘やかすことが出来ない生活は想像以上のストレスを被災者に与え続けています。

平成二十七年年度「第五回集まれ東北の子どもたち」では、十名の子どもたち(新規参加者一名)を迎え、日常とは離れた大都会東京へと全国里親会、岩手県里親会、日本子ども支援協会、日青塾、過去よりご協力頂いているスタッフ(ミュージシャン、派遣看護師)そして皆様のご支援・ご協力をいただき招待することができました。



本年は東京を中心に、十二月二十六日から二十八日の二泊三日の行程で子どもたちが笑顔になれるように日本一の物、歴史のある物、非日常的な物にふれ、池上本門寺朗峰会館を宿泊施設としスタッフ一同、子どもたちが少しでも前を向いて歩けるように活動を行いました。

まだ日の昇らぬ早朝よりバス、新幹線等の交通機関を使い一路東京へ。一年ぶりに会う子どもたち、初めて会う子どもたちを上野駅ホームにてスタッフ総出で、お帰りと大きな声でお迎えしました。

子供たちはみんな最初は緊張し、大人の私たちまでも緊張していましたが時間が経つにつれて馴染み、笑顔も増え、ピースを見せてくれるようになりました。

宿泊施設である朗峰会館では、朝勤を体験いたしました。寒く足のしびれに耐えながらでありましたが、精神的な安らぎ、歴史のある文化にふれ震災により亡くなられた方々への供養、復興への祈願を行いました。朝勤出仕の時に私たちの僧侶の格好・読経姿を見て、子どもたちが驚いておりました。

普段は子どもたちの為におちやらかしたり、楽しいことばかり話していたこのおじさんたちが真剣にお経を讀み折つている姿を見て感動したそうです。

しかしながら二泊三日の笑顔あふれる楽しい時間が過ぎ、帰りの折見せる寂しそうな顔。東京駅でスタッフと別れ、バスの車中や保護者が迎えに来た時の顔は、笑顔と寂しさの混じり合った表情でありました。バスから一歩踏み出すと、ここからはいつも通りの現実、仮設住宅での生活が始まるといった何とも言えない表情を見ながらのお別れでした。私達の活動は子どもたちの心にどのように響いているか



るかにはわかりませんが、帰りのバスの中で、「この仕事をやりたい、こんな大人になりたい」子どもたちの夢を聞き今回参加出来なかった兄弟、親戚の近況を聞きました。自分の中の可能性を信じ少しずつ前へと進んでいるのだなど、実感いたしました。今回の参加者は十名となり寂しい思いもありますが、参加者が減るといことは、それだけ被災地の子どもたちの心境が良い方向に変化したきたのではないかと思われれます。

しかし、支援の手がすべてに行き届いているわけではありません。これからの被災地の復興、被災地の未来、日本を担って行くであろう子どもたちへの支援、ご縁を大切にこれからも続けて参りたいと思っております。

平成二十八年年度の青少年教化委員の事業として「第六回集まれ東北の子どもたち」を企画しております。この事業を活動していくことは、皆様のご理解ご協力ご支援がなければ不可能でございます。今後とも何卒よろしくお願ひ申し上げます。

伝統と創造

小松原5丁目 まごころこめて感謝の合掌

●小型より大型まで豊富に展示しております ●各宗派仏壇仏具 ●寺院用具製造直販



小松原5丁目

角田佛壇店

和歌山市小松原通り5丁目(日赤バス停南100メートル)  
本店 / ☎(073)422-7029



御本山御用達 荒行堂専門

有限会社

時司法衣仏具店

〒607-8355 京都市山科区西野大鳥井町100-253  
電話(075)593-1170 FAX(075)581-3424

☎0120-77-1176

# 参加 報告 平成二十七年 行学道場報告

行学道場担当委員長 近畿ブロック長 藤井淳至

今年度の行学道場は、平成二十七年十二月十一日に、京都市の大本山妙顕寺を会場に開催いたしました。師走のお忙しい時期にもかかわらず、全国各地り総勢十名の方々にご来場賜り、誠に幸甚に存じます。

行学道場は、以前は宗務院を会場に開催されることが多かったようですが、今回、大本山を会場にお借りして開催しましたところ、本堂での法味言上、

執事長からの縁起説明、閉会後の宝物拝観など、当会場ならではの稀有な機会を頂き、非常に有意義に過ごすことができました。

また、前回に続き二回目となるグループトーク「ムダ話をしよう」では昨年同様、十数名の五グループに分かれ、昼食をとりながら、九十分間、自由な話題でグループ毎にフリートークをしていただきました。どのグループでも、檀信徒の心に響く葬儀の営み方や、若い世代をお寺に呼ぶ為の取り組みなど、実務的な話題で盛んに意見交換がなされていました。普段接することの少ない他府県の寺院や世代の異なる僧侶の実状・取り組みについて話す機会は大変刺激的で、このような場を有効に活用し、これからの時代における諸々の課題に対する方策を探っていければ、と感じました。

第二部では、曹洞宗の僧侶、南直哉先生を講師にお招きし、「現代における伝統教団の根本問題」と題して講演を賜りました。南先生は常々、宗教誌などで僧侶や教団の現状に



ついて警鐘を鳴らしておられ、今回も、先生の属される曹洞宗の現状を題材に、伝統仏教教団が抱える問題と、これから私達が目指すべき展望について熱弁を振るって頂きました。

特に、家制度をベースにした檀家制度の崩壊から未だ抜け出すビジョンを見出せない私達伝統教団の現状や、そこに至った明治以降の社会・教団の展開をわかりやすくお示し頂き、会場からはうなり声や苦笑が絶えませんでした。

講演では、「何よりの問題は、檀家数の減少等お寺の維持を先に考え、檀家制度が完全に崩壊した後の布教方法の模索やそれを担える僧侶の養成が行えていないところにある。これからはトライアンドエラーを繰り返して、この先の時代に通用するように布教方法・教化方法を再構築していくことが急務である。そしてその為には、社会や人々の問題を見据える視点・土台が自尊や宗祖の教えでなければならぬ。人々の問題に寄り添うには、まず、自尊と宗祖と現代・自分自身は如何に繋

がっているのか、真剣に向き合っていないければ、私達の言葉は説得力をもたないし、人の問いに対して答えを与えてあげることなど出来ない」など、非常に厳しいお言葉と、宗派を問わず私達僧侶が取り組むべく問題を提示して下さいました。そして最後に、「これからの日本仏教の将来を担うのは貴方達青年僧侶以外にはいない」と、期待と応援のお言葉を頂戴し、閉講となりました。

一〇〇分を超える講義は非常に熱の籠もった内容で、大きな刺激を頂くことができました。また、質疑応答では先生ご自身の出家の動機などもお話し頂き、自分自身の発心を省みるよい機会となりました。



最後になりましたが、快く会場をお貸し下さいました大本山妙顕寺、全国遠近各地よりご参加下さいました皆様、また、今回の行学道場開催に当たり、物心両面にわたり並々ならぬ御厚情を賜りました皆様に、この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。今後とも、よりよい行学道場が開催できますことを心より祈念申し上げます。

日蓮宗大荒行堂御用

## 木村鶴光仏具店

仏像彫刻師  
木村鶴光

〒111-0042

東京都台東区寿2-8-11

TEL: 03-3844-5911

FAX: 03-3844-5978

※東京メトロ銀座線 田原町下車2分

仏像彫刻・修復  
内陣荘嚴具  
設計制作  
宮仏壇神仏具  
念珠各種記念品





参加報告

インドナグプール龍宮寺十六周年記念法要

海外布教研修担当委員長 佐賀県日青会 前田 智琮

平成二十七年十一月二十四日より二十九日までの日程で、インド、ナグプール龍宮寺十六周年記念法要出仕の為、青年会から八名、立正大学から女子学生二名の計九名で渡印した。

全日空便で成田を夕刻に出発、約十時間のフライトを終えようとデリー国際空港へ着陸する為、高度を下げていく途中段々と機内に異臭が立ち込め出した。埃や排気ガスに何かスパイスが混ざったような匂い。窓の外を見るとガスが発生しているかのような視界不良の景色。事前に旅行社からはマスクを携帯するように指示があったが、まさかこれほどとは。

インド到着が深夜であった為、到着後すぐに空港そばのホテルにチェックイン、数時間の仮眠の後、早朝便でナグプールへ向かった。龍宮寺への道中、バスの外の風景を楽しむどころか、クラクションの鳴らない時が無いくらい、ひっきりなしの騒音に辟易させられた。

龍宮寺到着後、記念法要が行われた。同じ制服を着た善童男女が、この日の為に懸命に練習したという唱題の太鼓の妙音で法要を彩ってくれた。法要後、会場を移し歓迎レセプションが行われた。

翌日、釈尊入滅の聖地クシナガラへ向かう為、空路デリーへ、飛行機を乗り継ぎラクノーへ、その後バスで移動。日本で言うところの高速道路のような道を通ったのだが、凹凸だらけでこれがまともな道路なら他はどうなるのだろうと少し不安になった。夜、ホテルに着直前、地元民の結婚披露宴に遭遇した。道を塞いでの大騒ぎで大渋滞が起きていた。いくら抗議しようとも意に介さずで、しかたがないのでバスを止め降りて、しばらくの間見

学させてもらった。

翌朝、深い霧に包まれた茶毘跡と涅槃像が祀られた寺院を参拝、法味言上を終えた後、陸路でネパールとの国境へ向かった。所々分断された道、よく車が壊れないと思うほどの続く揺れ、ここで昨日の道路が高速道路であったのだということを実感させられた。国境付近でまた大渋滞、ネパールとインドの關係悪化で出入国の事務が滞っている状態、普段ならすぐに通過出来ることも長時間の待機によりルンビニ参拝が危ぶまれたが、なんとか無事に国境を通過、釈尊生誕の地を参拝後、空路でネパールの首都カトマンズに向かった。カトマンズ空港は震災の影響で機能が著しく制限されていた。

翌日、カトマンズ市内を観光した。インドと違いクラクションが鳴らない静かな道。た



だ震災後ということで、旧王宮広場やチベット仏教の影響を色濃く受けたネパール寺院(通称、目玉寺) 観光寺院など歴史的に重要な建造物が数多く崩壊した光景は物悲しかった。夕刻、カトマンズから空路デリーへ、日付が変わるまで空港内で過ごし、深夜便で帰路に着いた。



インド、ネパール両国を通して共通だったのは、行く先々に常に少年少女の物乞いが付いて回ることであった。幼い子を故意に泣かせ金を乞う母親の姿、食べ物や渡してもお金を貰うまで付き纏う子供達、日本やその他先進国と呼ばれる国々ではありえないその姿に驚いたが、後で話を聞けば、裏で金を巻き上げる悪い大人の存在があるという。悲しい現実を目の当たりにした。

龍宮寺は宗門にとって重要な寺院であることは間違いない。しかし残念なことに、主任が置かれず布教拠点の体裁が整っていないとは言えない。けれども地元の方々がお題目の功德を信じ唱え続けている事実は、何物にも変えがたいありがたい姿であった。今後国際佛教親交会を通じ、全日青も有志を持って活動を継続していきたいと思う。

宗祖名附茶屋

老舗 茶屋

念珠、仏像、仏具  
水晶、印伝、名香  
雨畑硯、土産品式  
印章一式、表装

総本山身延山久遠寺御用達  
日蓮宗大荒行堂御用達  
各本山寺院御用達

〒409-2524  
山梨県南巨摩郡身延町  
身延3703

TEL 0556-62-0312  
FAX 0556-62-2526

振替口座 00450-2526

E-mail  
minoya11@eos.ocn.ne.jp

みのや

総本山身延山久遠寺 日蓮宗祈禱大荒行堂 御用達

水晶・印伝・珠数・印章専門店

英玉堂 雨宮英夫

〒409-2524 山梨県身延山3702番地  
電話 0556-62-0023 FAX 0556-62-3376  
英玉堂HP <http://www.shokokai.or.jp/19/193651S0025/>

## 参 加 報 告

第五回 「宗教対話」から学ぶ  
宗教者と市民のためのフォーラム

副会長 神奈川県第二部日青会 大森 太朗

平成二十七年十月二十三日、ホテルモントレ ラ・スール大阪において、第五回「宗教対話」から学ぶ宗教者と市民のためのフォーラムが開催され、本フォーラムのテーマ「現代における宗教対話の必要性」について研讀されました。

講演に先立ち、元東京交響楽団の首席チェロ奏者、宣教師のベアンテ・ポーマン牧師によるチェロ演奏が行われ、現代宗教対話協議会理事長小林隆彰殿下、ヨーロッパ科学芸術アカデミー世界宗教部門総責任者エルマー・クーン先生より開会の挨拶がありました。

その後、アジア司教協議会連盟、キリスト教一致と諸宗教対話委員会議長、フリックス・マチャード大司教、立正佼成会学林学長の庭野統弘先生、真命山・諸宗教対話・靈性交遊センター副委員長のデ・ジョルジマリア先生が順次講演され、休憩を挟んで、統合学術国際研究所理事長 妙見閑寺住職でドイツ大聖恩寺理事長の竹内日祥僧正をコーディネーターとしてパネルディスカッション（パネラー・フリックス・マチャード大司教、庭野統弘先生、デ・ジョルジマリア先生）が行われた。

現代では急激なグローバルリズムが加速する中で人類は、過去の歴史において

て、類例がない程の多元化社会を迎えるに至りました。多元化社会とは互いに異なる人種や民族、思想や宗教、文化や文明において存在する人間相互が、この狭い地球上に共存し共生することが不可欠である社会環境であります。人類は今、この多元化社会において色々な深刻な問題に直面しております。それはひとえに、文明、宗教、価値観、理論の衝突であり、相互の対立により、人間の尊厳が脅かされる程の重大な事態が世界のあらゆる地域で頻発しています。

この人類の絶望的な未来に対する不安を解決する為の唯一の手段が「対話」であります。

「対話」についてデ・ジョルジマリア先生は、このように話されております。

「宗教対話」は、人類の歴史について如何なる意味があり、その役割を果たしてきました。しかしこれからの「宗教対話」に必要なのは、各々の宗教（経典等）の核心に迫り、またアイデンティティーが大事である、特に自身のアイデンティティーをはっきりしなければならぬ。「対話は宗教者として同じ目的地を目指し、互いに協力していくことによって、人類の未来を創造する希望になっていくと述べています。

次に庭野統弘先生は、法華経の常不輕

菩薩のお話を通して、他者を心から敬う事こそが、相互の関係性確立する上で重要であるとお話を頂きました。自分と違う宗教の方と出会うことによって、自身の宗教心がより深くなっていく、自身のアイデンティティーが確立していく、より宗教対話が強い物になって行きます。

自身のアイデンティティーが確立していくと、なにが出来ていくかと言いますと、命を頂いている人間としての尊厳がより深い物になっていき、尊い命を頂いているのは自分なのだど仏教の中で教えて頂いております。諸宗教対話をする事によって、他の宗教の方のふれ合いによって確立していくと同時に、他の宗教の方々が本当にその信仰を持つているならば、自分と同じくらい、その人の尊厳さや、その人が持つている宗教がどんなに尊い物かを感じたくなるし、知りたくなるし、どうい生活をしているか？ どういうお祈りや信仰をしているのかを学ぶ姿勢が出てくる。そういう循環はこの諸宗教対話から出てくると述べております。

フリックス・マチャード大司教は、第二バチカン公会議で発布されたノストラ・エターテの深い意義についてお話があり、カトリックのみならず、各宗教を信奉する方々が、対話をすすめる為の深い指針をお示し頂き、その哲学の深さと、大司教ご自身の信念の強さに感銘を受けました。

以上、雑駁ではありますが講演を拝聴した際に学んだ内容であります。これからも世界平和の為の救済策として、「諸宗教間対話」は絶対不可欠であると感ぜさせて頂きました。

## 御廟所のケヤキ、千本杉の杉

樹齢数百年の身延山の千本杉の杉、御廟所のケヤキ  
いずれも落雷にうたれ、伐採された貴重な銘木です  
珠数、お守り腕輪に仕立てます。  
十分乾燥しております、数に限りがございます。  
ご注文はお早めにお申し付け下さい。  
詳しくはお電話にてお問い合わせ下さい。

〒409-2524 山梨県南巨摩郡身延町身延3659

松司軒仏具店

電話・Fax兼用 0556-62-0210

法衣・袈裟

日蓮宗専門店

横庄法衣店

〒600-8229

京都市下京区油小路通七条上ル末屋町

TEL (075) 371-8814

FAX (075) 371-1241



参 加 報 告

一般社団法人 日青塾 活動報告

社会教化担当委員長 一般社団法人日青塾理事

東京東部日青会

藤井 教祥

【大阪マラソン出走】

日青塾は東京マラソン2015に引き続き、平成二十七年十月二十五日(日)に開催される大阪マラソンにチャリティーランナーとして出走した。フルマラソンを通して、社会に広く日青塾をアピールすることが目的である。出走者は松森孝雄代表理事、藤井教祥理事の二名。

当日は秋晴れの中、午前九時に大阪城公園を出発し、午後三時過ぎに理事二人はゴールした。集まった寄付金は東日本大震災復興支援のために「大阪マラソン」を通し津波で壊滅した沿岸の植樹を行っている団体に寄付をした。



【生まれ東北の子どもたち i n 東京に参加】

日青塾は平成二十七年十二月二十六日(土)〜二十八日(月)に開催された第五回生まれ東北の子どもたち i n 東京に共催団体として参加した。参加者は松森孝雄代表理事と藤井教祥理事の二名。詳細は青少年教化担当委員会を参照。



【東京東部日青会寒行に参加】

日青塾は平成二十八年一月二十日(水)〜二十一日(木)にかけて開催された東京東部日青会(野口泰宏会長)の寒行に共催団体として参加した。参加者は松森孝雄代表理事と藤井教祥理事の二名。

今年の東京東部日青会の寒行は被災し



【宮城県女川町 アロマ石鹸作り】

日青塾は平成二十八年一月二十五日(月)に宮城県女川町の社会協議福社にて「アロマ石鹸作り&健康体操」を開催した。これは女川町の被災者と共にアロマ石鹸を作りながら交流する被災地支援活動の一つである。昨年は同様に「アロマキャンドル作成&ハンドマッサージ」を開催したが、それが大変に好評であり、今年も女川町社会福祉協議会からのリクエストで開催が決まった。

現地の参加者は約三十名ほどで、和気藹々と開催され、見事にそれぞれがオリジナルの石鹸を作成した。健康体操では誰もが家庭で出来る簡単な体操をしながら、時折笑い声が聞こえるなど好評であった。日青塾は今後も被災地支援活動を進めていく。

【数珠ブレスレット 「琉球の涙」頒布】

日青塾のオリジナル数珠ブレスレット「琉球の涙」が増産された。これは昨年の終戦七十年に合わせて作成したもので、親玉が琉球ガラス、周囲の小玉が水晶のミカン玉で出来ている。戦争の悲惨さを忘れることなく、そして亡くなった方々への追悼の意味を込めて是非とも身につけていただきたい。

色は青赤の二色で、どちらも二つ二千円。赤色は女性用に少し短くなっている。ご希望の方は社会教化担当委員長の藤井教祥(身延別院 〇三・三六六一・三九九六)まで。



【お知らせ】

当法人の活動はFace book「一般社団法人日青塾」またはYouTube「日青塾」に報告しております。是非一度ご覧ください。

## 全国日蓮宗青年会 平成27年度 財務決算報告

平成27年6月3日～平成28年5月15日

## 収入の部

(単位円)

項目	27年度予算額	27年度中間報告	増減	備考
単位日青会分担金	1,800,000	1,960,000	160,000	55日青会
宗務院助成金	800,000	800,000	0	
機関誌広告料	300,000	600,000	300,000	20業者
活動助成金	1,500,000	2,085,000	585,000	日青塾助成金含む
前年度繰越金	555,820	555,820	0	
雑収入	65,000	275,333	210,333	宗報原稿料・表賃・貯金利息等
収入合計	5,020,820	6,276,153	1,255,333	

## 支出の部

項目	27年度予算額	27年度中間報告	増減	備考
事業費	1,050,000	973,694	△76,306	
各担当委員会事業費	900,000	827,831	△72,169	14委員会(機関誌発行代を含む)
ホームページ経費	150,000	145,863	△4,137	管理運営費
会議費	580,000	675,984	95,984	
代表者会議	50,000	123,234	73,234	岡山・池上
執行部会議	90,000	82,750	△7,250	岡山・京都・池上
事務局会議	50,000	50,000	0	会議室使用料等
各担当委員会会議費	390,000	420,000	30,000	14委員会(各30,000円)
事務通信費	310,000	258,126	△51,874	
事務用品費	110,000	87,409	△22,591	
郵送費	150,000	130,443	△19,557	
印刷費	30,000	30,524	524	
口座手数料	20,000	9,750	△10,250	ゆうちょ 振込口座
出張費	860,000	913,656	53,656	
ブロック会議	200,000	260,892	60,892	8ブロック
全日仏青	150,000	179,128	29,128	理事会等
執行部会議	360,000	405,456	45,456	
その他	150,000	68,180	△81,820	全日仏青花まつり参加費含
助成金	1,400,000	1,300,000	△100,000	
ブロック助成金	900,000	800,000	△100,000	8ブロック
結集助成金	500,000	500,000	0	
全日仏青負担金	250,000	250,000	0	加盟負担・協賛広告・大会負担
災害救援対策基金	200,000	200,000	0	平成27年度積立
慶弔費	50,000	0	△50,000	
予備費	320,820	138,150	△182,670	事務局員交通費助成・製装章・会場お札
支出合計	5,020,820	4,709,610	△311,210	

〈収入〉6,276,153 - 〈支出〉4,709,610 = 〈次年度本会計繰越金〉1,566,543円

以上のとおり報告いたします

全国日蓮宗青年会

会長 松森 孝雄

監査 井前 本隆

財務 長内 要純

監査 村越 智浩

## 別途積立金 中間報告

## 全国日蓮宗青年会 東日本大震災支援金

## 【特別会計】

項目	収入	支出
前年度特別会計繰越金	1,231,188	
残高		1,231,188

## 【災害救援対策基金】

項目	収入	支出
前年度災害救援対策基金	1,815,359	
平成27年度積立	200,000	
ゆうちょ銀行受取利息	358	
残高		2,015,717

◎別途積立金残高 3,246,905円

項目	収入	支出
前年度繰越金	1,692,790	
復興線香収益(日蓮宗新聞社)	1,240,000	
東日本大震災支援金	834,000	
集まれ東北の子供たち支援金	3,694,237	
被災地活動支援金(交通費助成)		872,662
傾聴支援活動(H27/4月・7月・9月・12月)H28/4月		146,400
復興線香購入(香雅堂)		249,480
ボランティア活動(飲料代込)		14,570
第5回集まれ東北の子供たち(支援金・雑収入)	509,011	
第5回集まれ東北の子供たち(飲食・事務用品・送料)		193,923
第5回集まれ東北の子供たち(旅行代金)		1,569,940
行脚助成金		30,000
東日本大震災慰霊法要献花代		20,000
口座手数料		17,696
合計	7,970,038	3,114,671
残高		4,855,367

◎東日本大震災支援金残高 4,855,367円





総本山身延山久遠寺御用 日蓮宗大荒行堂御用

数珠製造・仏像仏具・各種記念品土産一式

# 若松屋数珠仏具店

山梨県南巨摩郡身延町身延3700

TEL 0556-62-0145 FAX 0556-62-0191

振替／0045-5-1624 取引銀行／山梨中央銀行身延支店

E-mail wakamatu@eps1.comlink.ne.jp

ホームページ URL <http://www.eps1.comlink.ne.jp/~wakamatu/>

## 日蓮宗霊断師会連合会

霊断部長 石黒泰良	教学部長 小泉輝泰	副院長 野澤壯監	霊断院 松本恵昌	教宣部長 廣田学良	教務部長 品田祥皓	総務部長 蔵本知宏	副本部長・聖徒部長 天野行淳	本部 本部長	副議長 芦田勝康	議長 松永慈弘	芝崎恵應	大塩孝信	建塩光行	副会長 末吉観道	会長・霊断院院長
--------------	--------------	-------------	-------------	--------------	--------------	--------------	-------------------	-----------	-------------	------------	------	------	------	-------------	----------

霊断師会九段事務所 東京都千代田区神田神保町 3-25-11 九段中央ビル 702

TEL:03-6272-9340 FAX:03-6272-9341 URL:<http://www.yorokobi-reidanshikai.jp/index.html>

# 伝えたい! をお手伝いします

<http://www.e-for.jp/>

取扱品目

- 印刷全般  
機関誌・報告書・名簿・他ページ物  
パンフレット・ポスター・会社案内  
封筒・名刺・帳票類  
ノベルティー・他特殊印刷
- メディアミックス  
ホームページ企画・作成・管理  
ビデオ撮影・編集・パッケージ化  
電子書籍・出版  
プログラミング・データ処理  
掛軸・文化財レプリカ作成

株式会社 イーフォー

〒141-0031 東京都品川区西五反田8-7-11 アクシス五反田ビル202  
TEL 03-3779-1140 FAX 03-3779-1141



総本山身延山久遠寺・日蓮宗大荒行堂 御用達

身延山ご参拝お土産品 各種記念品等

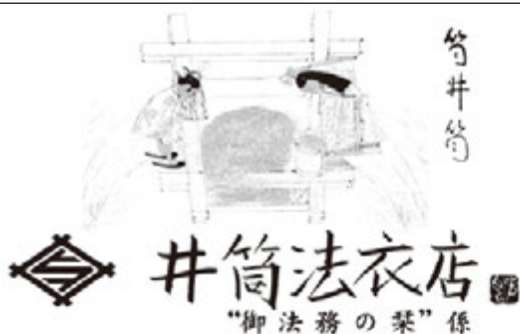
# 浪花屋珠数仏具店

店主 深澤永寿

〈東谷参道の老舗〉御珠数・仏像・仏具・太鼓・掛軸・経本・線香・木釘・印伝・水晶 等

多少に関わらず御用命お待ちしております

〒409-2524 山梨県南巨摩郡身延町身延3550 TEL 0556-62-0200 FAX 0556-62-0771



〒600-8503 京都市下京区堀川通新花屋町角(西本願寺前)

フリーダイヤル 0120-075-790 (075) 344-1000番(代表)

フリーダイヤルFAX 0120-075-480

井筒東京店 〒160-0008 東京都新宿区三栄町11-6 電話(03)3358-1500番

済不山御用達 麻布店  
株式会社 池澤法衣佛具店

〒604-8116 京都市中京区高倉通六角下ル  
TEL 075-221-2769(代) FAX 075-256-0036

●日曜・祝日・第2、第3土曜日は勝手乍ら休業させていただきます。

通話料は無料(弊社負担)で承ります。(AM10:00~PM5:30迄)



0120-23-4570

## 創業百有余年

磨き、繋ぐ、百年の技

一体一体手づくりでお届けします

総本山身延山久遠寺、日蓮宗大荒行堂 御用達  
全国の日蓮宗各寺院でご利用頂いております。



◎ 取扱品目

木札・紙札・金襴御守袋・卒塔婆  
朱印帳・交通安全守・彫り木守  
ビニール守・記念品・ステッカー  
熊手・守護矢・その他各種授与品

カタログ送付致します

お気軽にお問い合わせください。

和紙製造  
授与品奉製

有限会社 井丸井紙店

TEL 055-272-0136 〒409-3601  
FAX 055-272-3966

山梨県西八代郡市川三郷町市川大門763

おとうさま  
おかあさま  
ごくろうさま  
おじいさま  
おばあさま  
おつかれさま  
おにいさま  
おねえさま  
ごちそうさま  
おじさま  
おばさま  
おせわさま  
おきやくさま  
かみさま  
ほとけさま  
おかげさま



いつの時代も大切にしたい

「おかげさまで」  
という感謝の気持ち。

老舗 乾佛具店

高知本店 ☎ 0120-29-0072 松山本店 ☎ 0120-192-248

www.inui-butstu.co.jp

お札の奉製  
経本の製本  
掛軸の表装

株式会社

## 隆昌堂

〒546-0002 大阪市東住吉区杭全4丁目1-1  
電話(06)6714-2115 FAX(06)6714-8700

とりもどしたい...感謝のこころ

**仏壇 仏具** **泉屋**

— 全国優良仏壇専門店会加盟店 —

**上本町店** フリーダイヤル **0120-09-1238**

〒542-0063 大阪府中央区東平 2-5-15  
TEL: 06-6761-8066 / FAX: 06-6761-8699

(大阪) 高槻店 瓢箪山店 香里店 住道店  
枚方店 交野店 楠葉店  
(奈良) 奈良店 生駒店 田原本店 香芝店  
(京都) 宇治店

味が自慢の身延名物  
みのぶまんじゅう みのぶようかん

身延山御用達

**松 屋**

身延山門前  
山梨県南巨摩郡身延町身延3667  
電話 0556-62-0043  
FAX 0556-62-2143

みのおまんじゅう (10個入り 900円~)

## 全国日青加盟単位日青会 会長名簿

(平成28年4月27日現在)

富山県日青会	新潟県西部日青会	新潟県東部日青会	伊豆国日青会	栃木県日青会	茨城県日青会	埼玉県日青会	千葉県北部日青会	千葉県南部日青会	千葉県西部日青会	千葉県東部日青会	神奈川県第二部日青会	神奈川県第三部日青会	神奈川県第一日青会	神奈川県第二日青会	神奈川県第一日青会	東京都西部日青会	東京都東部日青会	東京都東部日青会	青森立正青年会	秋田県日青会	岩手県日青会	山形県日青会	宮城県日青会	福島県日青会	北海道北部日青会	北海道南部日青会	北海道西部日青会	北海道東部日青会	
荒野清	野口啓	本田義昌	望月勸水	横山広明	前刀賢雄	野本好海	小松是雄	西川辨雄	田澤裕泰	村野仁誠	阿部全雄	石本真教	鈴木悠元	石川龍彦	井上浩純	野口泰宏	秋田堯慶	小倉知法	阿部是眞	秋葉栄法	風間信静	大和田晃生	新渡戸孝乘	若松裕泉	獅子原光顕	北村舜晴			
宮崎鹿兒島沖繩日青会	大分県日青会	長崎県日青会	佐賀県日青会	日蓮宗熊本県青年会	福岡県日青会	鳥取県日青会	島根県日青会	広島県日青会	岡山立正青年会	兵庫東部日青会	和歌山日青会	奈良立正青年会	大阪豊能日青会	大阪三島日青会	大阪和泉日青会	大阪日青会	京都府第二部日青会	京都日青会	三重県日青会	愛知県尾張日青会	愛知県三河日青会	名古屋日青会	岐阜県日青会	長野県日青会	石川能登日青会	石川県第一日青会			
田中直秀	田口瑤光	森慈弘	藤尾成宣	塩田義照	瀬崎浄雄	那須孝允	小川廣教	中谷康韻	藤沢貴文	小原蒼溪	中井通雄	畠中善光	井田法幹	魚井啓誠	金山信利	藤田恵玄	木村朋寛	今井利幸	高津崇弘	吉田友謙	小幡潮音	深沢友延	田中裕史	伊神玄記	井前本隆	諏訪木孝啓			

インド亜大陸・聖地参拝のスペシャリスト

個人旅行から大型団体旅行までお任せください！

(法華経ゆかり霊鷲山/インド・ラジギール)

官公庁登録 1510 JATA 正会員 ボンド保障会員

**株式会社 トラベルサライ**

大阪 0120-408-128 TEL: 06-6232-3012

東京 0120-408-361 TEL: 03-5777-6326